白川郷荻町集落の自然環境を守る会　令和4年12月号

ねそ

守る会ホームページ　http://shirakawa-go.com/~ogimachi/

「空家対策」「共同車庫」の事例を視察！

11月26日（土）守る会役員有志で、南砺市の相倉集落及び菅沼集落へ、見出しの事例視察へ行ってきました。荻町でも差し迫っている２つの課題。荻町よりも先にこの課題が生じている両集落の先進的な取り組みについて話をお聞きし、荻町ではどのように進めていくべきなのかを考える良い機会になりました。以下に両集落での取り組み及び、視察に行った感想をご報告いたします。

「空家対策」の取り組み（相倉集落）

”世界遺産に住まんまい家？相倉集落の居住者受け入れプロジェクト”

［プロジェクト概要］

集落内で空家となっていた旧高田家（市所有・市が最低限の改修を実施）に移住者を募集する取り組み。第一弾が平成24年に実施され、54組の応募があった。二次選考では、集落に暮らす女性や子供も含めた全員と、選考に残った10組の応募者全員とで交流の場を持ち、最終的に地域住人により選ばれた方が移住。（旧高田家への居住が叶わなかった数組の応募者の方も、市内の別の地域へ移住された。）現在その移住者は、旧高田家から集落内の合掌家屋へ移り住み、再び居住者を受け入れられるよう第二弾のプロジェクトを進めている。なお、プロジェクト開始から10年経過し、集落の子ども達は中学生以下で3人から13人に増え、集落の半数以上が40歳代以下の若者という活気ある集落になっている。

当時、地域の方は外の人に警戒心を持っていたそうですが、暮らしやルール、住人が移住者へ求めること等を明確にし、自分たちで選考することで「みんなで選んだ人だから、自分たちで移住者を根付かせよう」という責任感と受け入れ態勢が芽生えたそうです。移住者が地域を理解しようとする気持ちや行動が大切であることは言うまでもありませんが、移住者が地域の一員となっていくためには、受け入れる地域の方の行動も、同じくらい大切であると感じました。また、地域の方だけでなく移住する側も大きな不安を抱えているという移住者の方の言葉が印象的でした。お互いが寄り添い、助け合って地域の未来を考えていくことができたら幸せだなと思いました。荻町でも組単位で、このような取り組みができたらいいのではないかと感じました。

移住者の方のご苦労などもお聞きしました

再び空家となっている旧高田家

「共同車庫」の取り組み（菅沼集落）

［共同車庫概要］
南砺市へ合併前の平成9年に行政が整備。管理運営は集落で実施。収容台数は十数台で、月1,000円の使用料（管理運営費）を徴収している。駐車場から最も離れた利用者は200m。ほぼ全世帯が活用しており、景観保全に繋がっている。必要であれば、管理運営費から、軽微な改修を行っているが、今後大規模な整備が必要となった際には行政の支援が必要とのこと。集落から共同車庫は地下通路を通ってアクセスでき、駐車場上は茅場として活用。様々な企業や学生が茅刈りに参画している。

集落内に車が少なく、すっきりとした印象を持ちました。共同車庫から遠い方も利用されているとのことで、利用しやすい料金設定や車庫の整備が功を奏していると感じました。冬の除雪については、公共の道路除雪が入りますが、それにより押された雪またじは、気がついた方でやっているとのことで、助け合いの精神が伺えます。荻町でも組単位で共同車庫を持つことができればいいなと思いますが、まずは空地や空家の確保や、住人のニーズ調査が必要であると考えます。

傾斜地を掘って共同車庫に

冬期の車の雪おろしが不要

集落から車庫へ通じる地下通路入口

集落から車庫へ通じる地下通路

共同車庫上の茅場

守る会活動スローガン　～守る・暮らす・つなぐ～

①守　る：住民憲章を基盤とした、世界遺産である合掌家屋と農山村の景観保全
②暮らす：結の精神が根ざした共同体と、景観に調和した豊かな住民生活の向上
③つなぐ：故郷から学び、他地域の交流から学び、未来の継承者を育成

11月の活動報告　※令和5年1月の定例会は20日（金）を予定（公民館またはzoomにて）

8日　拡大役員会
10日　11月定例会（オンラインzoom）
11日　ねそ11月号発行（総務部）
12日　茅場草刈り（役員有志）
19日　センガ岩倉庫冬期入れ替え（一般環境部）
26日　相倉・菅沼視察（役員有志）
随時　旧寺口家雪囲い（福田）

12月の協議事項（現状変更申請に関わって）　12月8日開催（zoom）

白川村教育委員会･･･文化財案内看板の取替　　＊＊＊＊･･･店舗一部解体
＊＊＊＊･･･車庫のトタン張りをオーバースライダーに取替